

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第一輯）16

廣西師範大學出版社

昭和十二年五月

滿蒙貿易事情調查報告書

滿鐵 上海事務所

調査室主事 伊藤武雄

本調査ハ昭和十二年三月滿鐵産業部商工課ニ於テ計畫實施セラレタル商
 支貿易調査報告ノ一部ヲ成スモノテアル。同在四月商工課ノ改組アリ商
 支貿易調査擔當員ノ分散ニ由リ報告率ノ編纂ハ甚ノ儘トナツテ居タノニ
 アルカ、幸ヒ所東京調査報告ノミハ原稿ヲ得テアリ、日支貿易ノ調査報
 告ハ支那總領事館ニ於テ南支經濟事情ノ先施調査ハ忽チナルモノアルニ
 對シニ之ヲ謄寫スル次第ナリ
 執筆者 鐵道總局附業局 河 村 修 一
 昭和十五年五月

電報。上海事務所
 調査室主事 伊 藤 武 雄

緒言

一 本調査書ハ昭和十二年五月初ヨリ約一箇月間、主トシテ廣東及汕頭ニ於ケル輸入貿易事情調査ヲ遂ケ其ノ結果ヲ集録シタルモノニシテ、左記「香港ヲ山心トスル對中貿易ノ現狀調査」九箇中、筆者ニ於テ擔當セル末尾ノ二篇（8及9）ニ該當スル部分ノ調査報告書ナリ

記

- 1 對中南支仲繼貿易概況
 - 2 對中南支仲繼取引事情
 - 3 仲繼貿易ニ關スル商業施設
 - 4 香港ニ於ケル對中ノ經濟政策
 - 5 密輸者及密輸方法（密輸事情）
 - 6 汽船及戎克發動機等就航狀況（海運狀況）
 - 7 汽船及戎克發動機船用港灣事情（港灣事情）
 - ※ 8 陸揚地ニ於ケル輸入事情
 - ※ 9 陸揚地ヨリ消費地ニ至ル輸送事情
- ※ 本調査書ハ可謂綜合調查ノ核心タルヘキ香港事情及密輸調査ノ

詳細ニ觸レス、依テ各篇調査報告ノ綜合稽査ニ依リ求メラルヘキ總括的結論モ亦之ヲ他日ノ取纏ニ俟ツコトス。尤モ筆者擔當ノ廣東側ヨリ見たル對香港貿易事情ニ關スル限リニ於テハ本篇第一章、第二章記述ノ「兩廣對外貿易ニ於ケル特質」就中其ノ第三項「香港ノ影響力」ニ敘述ノ各事項ハ即チ之カ結論的要點ヲ概示スルモノナリ

三 尙本調査實施當時ハ恰モ日支事變勃發直前ニテ對日氣運殊ノ外險惡ナリシコト特ニ汕頭ニ於テハ我領警凌辱事件突發ノ爲全市戒嚴令下ニ在リ現地調査困難ヲ極メ資料不充分ノ點尠カラサル一方、整理按配ヲ要スル部分又ナシトセス、即チ本調査書ハ今次事變匆忙ノ間荒纏ノ資料項目毎ニ一應配列シタル程度ノモノニ過キサルトヲ茲ニ附言ス

昭和十二年 月

産業部商工課
河野 修

一

目次

第一章	廣東及廣西兩省貿易概況	一
第一節	沿革	一
第一項	開港以前ノ外國貿易	一
第二項	開港以後ノ外國貿易	七
第二節	兩廣對外貿易ニ於ケル特質	一六
第一項	農村經濟上ヨリ來ル特質	一七
第二項	在外華僑ノ送金	二二
第三項	香港ノ影響力	三〇
第三節	最近ニ於ケル對外貿易ノ趨勢	四二
第一項	輸出入額	四二
(1)	輸出額	四二
(2)	輸入額	四三
(3)	入出超額	四八
第二項	主要輸出入品	五三
(1)	主要輸出品	五三
(2)	主要輸入品	五九

第三項

國別輸出入額

六七

(1)

主要輸入國

六八

(2)

主要輸出國

七三

(3)

對日關係

七六

第四節

最近ニ於ケル沿岸貿易ノ趨勢

八〇

第一項

移出入額

八〇

第二項

主要移出入品

八四

(1)

主要移出品

八四

(2)

主要移入品

八五

第二章

廣東及汕頭ニ於ケル輸入品取引事情

九三

第一節

貿易統制機關及主要取引業者

九三

第一項

貿易統制機關

九三

(1)

廣西省出入口貿易處

九四

(2)

廣東省營產物經理處

一〇三

第二項

主要取引業者

一〇九

(1)

南北幫及九八幫

一一〇

(2)

買辦及經紀行

一一一

(3)

華商團體及主要商店一覽表

一一三

(二)	有力外商一覽表	一二三
第三項	廣東及汕頭在留邦商ノ現狀	一二七
(1)	廣東在留邦商	一二七
(四)	汕頭在留邦商	一三二
(六)	在留邦商ニ對スル支那側ノ不當壓迫措置	一四一
第二節	主要輸入品取引條件及商慣習	一五一
第一項	綿布類	一五一
第二項	化學藥品類	一五三
第三項	海產物類	一五七
第四項	人造肥料	一五八
第三節	爲替及爲替相場	一六七
(1)	在廣東主要爲替銀行一覽	一六八
(四)	最近三箇年主要爲替相場高低表	一七二
第四節	香港及廣東間輸送事情	一八〇
第一項	輸送機關	一八〇
第二項	輸送實情	一八五
(1)	運賃	一八五
(四)	陸揚諸掛	一九二

(一)	納税通關（附、濤河損）	一九六
(二)	倉庫設備	二〇八
第三章	陸揚地ヨリ消費地ニ至ル輸送事情	二二一
第一節	商勢圈	二二一
第一項	汕頭港ノ商勢圈	二二二
第二項	廣東港ノ商勢圈	二二三
第二節	輸送機關及消流狀況	二二六
第一項	陸運機關	二二六
第二項	水運機關	二三九
(一)	廣東港ヲ中心トスル江運狀況	二四三
(四)	梧州港ヲ中心トスル江運狀況	二五三
(六)	汕頭ノ港灣設備ト同港ヲ中心トセル水運狀況	二五八
第三項	消流狀況	二六九
第三節	諸稅諸掛	二七八
第一項	諸稅掛	二七八
(一)	專稅	二七九
(四)	外國品附加費	二九八
(六)	石油及石炭販賣營業稅	三〇〇

第二項 諸 掛……………三〇三

(1) 粵漢鐵路貨物運賃……………三〇三

(2) 西江上流舟運賃……………三〇九

(3) 韓江民船及潮汕鐵路貨物運賃……………三一五

附 錄

廣東省營工業ノ現狀及兩廣機械工具輸入統計……………三一八

第一節 概 說……………三一八

第二節 建設狀況……………三二三

第三節 工業資源……………三三六

第四節 兩廣機械類輸入統計……………三四二

參考書目……………三五二

兩廣貿易事情調查報告書

第一章 廣東及廣西兩省貿易概況

第一節 沿革

第一項 開港以前ノ外國貿易

廣東省ハ支那最南端ニ位シ面積八六四二六方哩、現在人口凡ソ三三〇〇萬、氣候溫暖河川ニ富ミ東南海岸線一〇〇〇餘萬哩、港灣四〇箇所ヲ算ヘ古來農蠶業盛ニシテ漁獵業資源亦尠カラス、就中廣州市ヲ頂點トスル珠江三角洲一帯ハ地味豐饒、舟運至便ニシテ其ノ地理的事情ハ遠ク唐代ニ於テ既ニ印度、アラビヤ各地トノニ支那最初ノ海路交通路ヲ開キ、廣東ヲシテ近世歐洲列國ノ經濟的侵入最初ノ門戶タラシムルノ因ヲ成セリ即チ廣東對外貿易ノ發達ハ極メテ舊ク唐宋時代ハ姑ク之ヲ措クモ、元代ニ於テ彼ノマルコポーロ一族カ天山經由來支シ歸途杭州、泉州、廣東ヲ經テ波斯ニ出テント傳ヘラルルハ其ノ海路交通ヲ示スモノニシテ、地中海ノ北ノアラビヤ、フンドーレンス等各部府カ繁榮ヲ極メシ時代ニ於テアラビヤ波斯ヲ經テ廣東福建ノ特產物ヲ輸入セシコト尠カラスト稱セラレ、元代ニ至ル迄北方ニ於ケル陸路通商ノ發達ト共ニ南方ノ海路貿易亦漸次ニ進歩セルヲ想見スルニ足ルヘシ但シ廣東ニ於ケル本格的互市トモ謂ヒ得ヘキハ明代葡人來航以後ノ事ニ

屬シ且其ノ初期ノ交易ハ今日ノ香港ヲ通スルカ如ク、主ニ澳門ヲ通シテ行ハレタルモノニシテ、左ニ各國人ノ來航並當時ニ於ケル其ノ交易事情ヲ概述スヘシ

(一) 歐人來廣事情

明代中葉ニ至リ葡西兩國人世界ノ航路ヲ拓クヤ、一五一一年先ツ葡萄牙人ペレストレルヨ (Raphel Perestrelys) 馬來半島ヨリ支那海岸ニ航シ、次イテ一五一七年アムステルダム (Ernando Pereg. De Anslade) 葡船及マレール船各四艘ヲ率イテ廣東ニ入り通商要求ニ先鞭ヲ附シタリ、爾後、葡人相踵テ來リ廣東、澳門ヲ初メ三處ノ貿易地ヲ定メ、又寧波、福州、廈門ニモ出入シ、一五五七年以降年額五百兩ノ當地料ヲ支那官憲ニ支拂ヒテ澳門居住權ヲ得、爾後一八八七年葡領トナル一澳門ハ葡人對支貿易ノ據點トシテ殷盛ヲ極ムルニ至レリ

西班牙人ハ葡人ヨリ稍遲レ一五七五年比律賓ヨリ來廣通商シテ廣東マニラ間ノ交通ヲ開キ、和蘭人ハ一六二二年ニ七艘ノ船隊ヲ率イテ澳門ニ來リ之ヨリ通商ヲ試ミシモ葡人ノ排斥ニ遭ヒタル爲、改メテ臺灣ヲ根據ト爲シ廈門、福州、廣東省城ニ出入セリ

又英國人ハ明來一六三五年ニウエヰヂル (Weddel) ノ澳門ニ來リ廣東ニ入りタルヲ初メトシ其ノ東印度商會ハ支那貿易ヲ掌握スル事百數十

年專ラ阿片賣込ヲ以テ巨利ヲ博シ道光二十年（一八四十年）遂ニ阿片戦争ヲ惹起シテ香港ノ割取ト五港ノ開港等ニ成功スル迄其ノ利益ヲ壟斷シタリ

而シテ佛蘭西及伊太利等ノ天主教徒ノ進來セシハ元代ニ始リシモ、佛ノ海路通商ハ各國ヨリ遲レテ一七〇〇年代以後ノコトニ屬シ且貿易モ他國ノ夫レニ比シテ振ハス、一八〇二年英佛戦争ノ爲廣東ヲ逐ハレシヨリ凡ソ三〇年間廣東ニ佛國旗ヲ見サリシト傳ヘラル

尙開港前ニ於ケル廣東ノ對外關係トシテ明初ヨリ明一代ノ間凡ソ三百年所謂倭寇カ廣東沿岸ヲ侵シ遠ク雷州半島ヨリ瓊州以南ニ及ヒテ土民ヲ畏怖セシメタル旨支那ノ歴史ニ見ユルハ現在當地方ニ於ケル邦人ノ萎靡踟躕セルニ比シ頗ル興味アル事象ナリ

(二) 交易事情

廣東開港前ハ澳門カ葡人ノ獨占的通商場タリント共ニ廣東省城ハ各國人ノ共同通商市タリシモノニシテ、各國人ハ此處ニテマツタト明（Factory）及フシ。システム（Hong system）ニ依リ通商ニ從事セリ、フアクトリーハ外人ノ取引店、倉庫及宿泊所ヲ兼ネタルモノ、又ハントハ「行」ニシテ外人ト支那人間ノ仲介商業者ヲ云ヒ、一七二〇年幾多ノ「行」聯合シテ公行（On-Hong）ノ名起レリ

公行ハ廣東貿易ニ於テ獨占權ヲ握リ同時ニ貿易管理權ヲモ有セシ觀アリ、即チ公行ハ輸出入品ノ賣買ヲ引受クルハ勿論、外人在留フアシト
リノ管理規定ヲ設ケ外國船ノ入港規則ヲ定メ、外人及支那官憲間ノ
交渉ヲモ掌リタリ、而シテ當時ノ規則ニ依レハ外人ノ永久居留地ハ澳
門ニノミ許サレ、廣東ニ來ル者ハ一定ノ在留期間ヲ限リフアシト
リ居住シ得ルモ用務終ルヤ直ニ歸スヘク、又外國船ハ一旦澳門ニ入
リ支那官憲ノ特許セル水先案内及買辦ヲ雇ヒ、次イテ廣東ニ入港セハ
フアシトリヲ經テ公行ニ貨物送狀ヲ提出シ公行ハ輸入手續ヲナシテ
右貨物ヲフアシトリニ陸揚セシムルコトナリ居リ、尙銀貨ニ限り
其ノ體フアシトリニ倉庫ニ搬入スルヲ許サルル外凡テノ商品ハ悉ク公
行ノ手ヲ經ルニ非サレハ賣却ヲ禁止セラレ輸出品購入モ亦公行ノ仲介
ニ依テノミ行ヒ得タルモノノ如シ
公行ハ斯クノ如ク當時ノ外國貿易ヲ專管シタルカ爲獲利巨大ナルモノ
アリ、外人ハ賣買悉ク之ヨリ價格ヲ定メラレ且種々手数料ノ支拂ヲ要
セリ、從テ公行ノ組合員トナル特權ヲ購フニハ數十萬兩ヲ以テスルニ非
サレハ之ヲ得ス、支那官憲ハ公行ノ巨利ヲ見テ屢獻金ヲ命シ又贈與ヲ
求ムルヲ常トシ、例ヘハ一八四一年ニ於ケル阿片戰爭ノ賠償金六百萬
兩中二百萬兩ハ公行ノ獻金ナリト稱セララル、因ニ廣東開港後公行は散
當時ニ於ケル行員ハ一三人ニテ、今尙廣東ノ一市街名トシテ一三行ノ

名ヲ遺シ居レリ

又廣東省城ニ出入セシ外人ノ設立シタルフアクトリーハ英、和、佛、瑞、丁、西及米等ナルカ、獨立ノフアクトリーヲ有スルコトナク之等ニ依頼シテ通商ヲ行ヘルモノモアリ、尤モ葡人ハ澳門ニ根據セシ爲特ニ省城ニ出入スルモノ少カリシカ如シ

次ニ當時ニ於ケル關稅關係ヲ見ルニ、開港以前ノ廣東通商ハ歷代北京政府ニ於テハ之ヲ蕃夷ノ來朝トナシ全ク恩惠的ニ賦課セルニ過キス、外人ニ於テホッポ（Hoppon）ト名付ケタル徵稅官ハ中央戶部ノ派遣ニ係リ輸出入稅ヲ賦課シタルモ、當時ノ狀態竝中央宛徵稅報告ニ關スル又意見當ラサル點等ヨリ考フレハ、中央政府ハ全ク稅收入ニハ關係ナク總テ省收入トナリタルモノノ如ク、尙廣東官憲ニ於テハ有利ノ貿易ヲ喜ヒ、石ホツルノ關稅ニ附隨シテ總督、巡撫、布政使等適宜稅捐ヲ課徵シ各利スル所アリタル模様ナリ一註、現在ニ於テモ廣東海關監督ニ限り特ニ英名 Hoppon ト呼稱セラル

最後ニ開港前ニ於ケル貿易額ハ之ヲ詳ニスル術ナキモ、輸出大宗品ハ茶及生糸ニシテ各國人競ツテ之ヲ欲米ニ送リ紹介ニ努メタル結果、右物產品ハ速早ク世界的商品トナリ支那ノ裨益洵ニ甚大ナルモノアリ、一方輸入主要品ハ阿片、雜貨及銀ニシテ、輸入額ハ當時歐米ニ於ケ

ル斯業未發達ノ爲殆ト見ルヘキ輸入ナク、貿易尻ハ常ニ輸出超過タリ
之ニ因ル銀ノ流入ハ支那ヲシテ銀貨國タラシムル趨勢ノ助長ニ資スル
所相當大ナルモノアリタリト思料セラレ

第二項 開港以後ノ外國貿易

鴉片戰爭ノ結果一八四二年英清南京條約ニ依リ、廣東省城カ所謂五港ノ一トシテ通商ノ爲開放セラレテ以來既ニ九十五年、此ノ間條約又ハ自開ニ依ル開市場次第ニ加ハリ、今ヤ廣東省ニ於テハ廣東、汕頭、九龍、三水、江門、洪北、瓊州、北海及雷州ノ九海關ヲ、而シテ廣西省ニ在リテハ梧州、龍州及南寧ノ三海關ヲ設置シ各關夫々要地ニ分カ分所ヲ設ケ以テ外國貿易及沿岸貿易ヲ管理シツツアリ。之等諸港ハ其ノ商圏タル廣東廣西省全部、福建西部、湖南南部、江西及貴州各一部等諸地方ノ輸出入門戸トシテ相當廣闊ナル背後地ヲ擁スルノミナラス、廣東一帶ノ特産ハ支那ニ於テ優秀ナル地位ヲ保有シ且華僑送金並香港、廣州灣、澳門等外領自由港トノ近接其ノ他次項ニ述フル如キ特殊事情等相俟チテ其ノ對外貿易ハ形式ニ於テ所謂仲繼及密貿易ノ發達ヲ招來スルト共ニ、正當貿易額ニ於テモ他ノ一般支那地方ニ於ケルヨリ更ニ大ナルヲ致シ、一九三六年迄十箇年間ニ於ケル廣東、廣西二省ノ對外貿易額ハ全支（滿洲ヲ含マス）ノ夫レニ對シ、輸入一六。七%輸出一七。三%ノ高率ヲ示セリ。就中、廣東、九龍、汕頭ノ三港ハ香ニ華南貿易ノ中心タルノミナラス、全支ニ於ケル屈指（一九三六年對外貿易額ニ於テ夫々第四、五、六位ヲ占ム）ノ貿易港ニシテ、右ハ左表一人當貿易額ト共ニ廣東省經濟ノ海外依